

展 示 目 録

★ 展 示 目 録	件数	件数
★ 風の歴史		
新庄字 風(龍)	1	中津川 風 2
江戸錦 風	1	山形角 風 1
風参考図書	4	山形字 風 1
北斎画富嶽36景	2	谷地 風 2
清長画春風米からみ 風	1	長崎 風 1
		山辺 風 1
		小田島 風 1
★ 外国の 風		山形版木 風 5
ダイヤ 風(模 型)	1	山形版木 風 1
ダイヤ 風(欧 米)	1	山形版木 風 1
金属タコ(米 国)	1	山形版木 風 1
ふくろう 風(タ イ)	1	長崎版木 風 1
細工 風(中 国)	5	新庄 風 絵 5
		猿羽根 風 2
		酒田 風 5
		観音寺 風 2
		鶴岡 風 2
★ 日本の 風		★ 風 作り
ハタ(長 崎)	1	風 絵 見 本 1
鬼ようざ(長 崎)	1	竹 骨 2束
町じるし 風(静 岡)	1	米 か ら み 1
袖 風(千 葉)	1	風 3
江戸 風(東 京)	3	★ 豆 風
テンバタ(宮 城)	1	鯉 風(香 川) 1
蛸の 風(新 潟)	1	さがみ 風(神 奈川) 1
六角 風(新 潟)	1	大須賀巴 風(静 岡) 1
津軽 風(青 森)	1	文字 風(江 戸) 風 1
むかで 風(長 崎)	1	文字 風(龍) 1
★ 県内の 風		
米沢 風(変 形 風)	2	
米沢 風(大 風)	1	
米沢 風(角 風)	2	
米カヲ 風	2	

件数	件数
奴 風 1	隠明寺 風(カスベ 風) 5
風 絵(東 京) 1	隠明寺 風 版 木 2
定紋 風(東 京) 1	酒 田 風 4
ダイヤ 風(東 京) 1	新 庄 風 3
三郎こま 風(大 分) 1	猿 羽 根 風 1
江戸 風 画 集 1	長 崎 風 2
江戸 町 奴 1	谷 地 風 2
寿賀 風(江 戸) 2	米 沢 風 1
	鶴 岡 風 2

★ 伝統に生きる 風 絵

隠明寺 風(角 風) 4

風 絵 展 ご 協 力 者 名 簿 (順不同)

新 庄 市	隠明寺 風 保 存 会
谷 地 町	官 本 忠 孝 氏
米 沢 市	速 藤 太 郎 氏
〃	原 康 吉 氏
高 島 町	近 才 吉 氏
山 形 市	山 田 五 十 八 氏
〃	浜 村 隆 司 氏
〃	KK 自 由 公 論 社
〃	榎 光 章 氏
〃	板 垣 寿 美 子 氏
中 山 町	岡 村 藤 吉 氏
〃	鈴 木 光 兼 氏
酒 田 市	加 藤 勇 吉 氏
八 幡 町	佐 藤 三 治 郎 氏
三 川 町	速 藤 良 勝 氏
鶴 岡 市	佐 藤 敬 二 郎 氏
〃	安 藤 勇 夫 氏
東 京 都	広 井 力 氏
〃	毎 日 新 聞 社
〃	英 国 大 使 館

春の催し物展

風 絵 展

1974.5.2~6.23

山 形 県 立 博 物 館

開 催 に あ た っ て

風は、描彩を競い、形の変化に富んだものを生み、人々から愛されてきた。伝統の中に、はぐくまれてきた県内の風を中心に、外国や日本の風の一例を展示し、その中に豊かな人間性の回復を求めてみたい。また、風をとおして、庶民の作りあげた美と技を理解し、現代の子どもたちの生活に豊かさを与えていきたい。

降りつもった雪が消え始め、春を呼ぶ風が吹くと、町や村の子どもたちが、広場や田んぼを利用して、風上げを行なう。大空に舞う風に、子どもなりの夢を託して、一生懸命に風糸をあやつる。風絵展を開催するにあたり、日本や世界の風を知り、風の歴史をとおして、山形県の風を探ってみよう。

1) 風の歴史 風は、紀元前40頃から、中国やギリシアであげられた記録があり、古い歴史を物語りながら現代に至っている。風の発生は、中国からヨーロッパ、アジア、アフリカ諸国へ伝わった。朝鮮を経て日本へ伝来したのは平安時代であるが、それ以前に日本本来のものがあつたようである。日本書紀に鯨旗というものをあげた記録が残されている。古代の風は、占い、信仰具として利用したり、戦争の通信用具として用いられた場合が多い。山形県では、110の後三年の役に、置賜四郎が城との連絡に使つたことが伝えられている。その後、風上げは武士や貴族たちが行なつたが、子どもたちが風上げを行なうようになったのは江戸時代になってからである。江戸時代になると、封建的とはいへども、庶民文化の隆盛の時代であつた。風を用いて高い本堂の屋根瓦を修復した例は、江戸だけでなく、山形においても行なわれたようである。また、風上げが流行しすぎて、幕府から禁止されたりした。風の形もいろいろなものに変化し、風上げあそびでも、いろいろな方法が生れるようになった。

2) 外国の風 中国で発生した風は、世界各地へさまざまな経路を経て伝播された。東南アジアの原始的な風として「木の葉風」がある。これらは、沖縄諸島においても流行した。バナナ、ガジュマル、ほうの葉などを素材としている。ヨーロッパにおいては、骨組を十字形に組んだ「ホーカイト型風」があり、ひし形の風があげられた。雷のもつ電気を発見した科学者フランクリンも、この形の風をあげたらしい。欧米における風の発達は、形態が創造的で新しい素材として、紙の代用としてビニールを用いたり、立体的な風が多く作られるようになった。

中国や東南アジアの風は形が、いろいろ変化して、動物や昆虫を具象化した細工風が生れた。色彩が豊かで、骨組の細工が精密である。風によって空で身を泳がす姿に愛きょうがあ

り、風そのものは民芸品として愛されるようになった。これらの風は長崎へ伝わり、むかで風、せみ風、唐人風、バラモン風などのように造られるようになる。

3) 日本の風 日本の文化は外国から種々とり入れて成立して来たように、風も形態上からみると複雑でいろいろなものがある。一般的に角風が多く、錦絵風・字風に代表され、多角形風・円形風・菱形風・袖形風・細工風(具象風)、立体風などに分類できる。日本の風は形態と構造上から分類すると、それぞれ系統がわかり、描がかれた絵から民俗的な風俗・文化を理解することができる。これらの風は、町から村へ、絵師から庶民の手へ、風作りの伝統が伝播し、種々の絵風、風の形を生んで来たのであろう。

4) 山形の風 山形県内では風のことを、「ハタ」、「テンバタ」などと呼ぶ名称が一般化している。「たこ」という名称が使われるようになったのは、東京中心の文化圏になってからである。「～ハタ」という名称は、最上川をのぼつて来た関西方面との交易と、文化の影響によって、生れ伝えられて来たものであろう。現在、酒田の角風を「ブンブン」といったりするが、九州方面で使用されている名称と、共通する所があり興味深いものである。

山形の風上げの記録は数少ないが、山形では明和年間頃、山形城内において、町若衆が大風を上げて、城内の武士が軍師となり、けんか風合戦をした記録が見られる。また米沢では、五月節句に幟のかわりに、軍記物の英雄の描かれた風をあげた記録が見られる。つまり、県内の風上げの伝説は置賜四郎の風上げがあるが、庶民の手で、子どもたちの手で、風上げがなされたのは江戸末期以降ではないかと考えられる。

風の形は全体的に角風が多く、古い姿の角風は長方形で、谷地風、長崎風、金瓶風に残されている。これを、目録一枚風といっており、大きなものは三十枚風が作られたようである。他に、変わった風として、新庄の六角風、山形、米沢のコマ風、酒田の奴風、ヒト風など、伝統を伝えながら今日に至っている。骨組は、風の強い所程頑丈な骨組を作るので、新庄や酒田庄内方面の骨組みはタテ3～5本、ヨコ3～5本、筋違いをつけ、風糸は3～5本で風を継いでいる。村山や置賜は大風でない限り、骨組の竹の数は少ないのが特徴である。

5) 県内の風の種類と特徴 江戸末期から現代に至るまで、

庶民の手によって受け継がれて来た風は県内各地に見られるが、本館で調査し収集した数は17種にのぼる。風上げが、活発になりつつある現在、もっと発見されるだろうが、現在までのものを、四つの地区にわけて分類すると、次のようになる。

- (1) 置賜地区 米沢風(原康吉作)、中津川の雲龍風(作者不詳)
- (2) 村山地区 金瓶風(斎藤柳月作)、五十八風(山田五十八作)、山形版木風(荒井某作)、山辺版木風(長岡清吉作)、谷地版木風(柳田某作)、小田島風(秋葉宗蔵作)、長崎風(鈴木光兼作)
- (3) 最上地区 新庄風(戸時氏ほか)、黒沢風(荒川某作)、猿羽根風(井上又十郎作)、隠明寺風(隠明寺勇象作)
- (4) 庄内地区 酒田風(加藤隆吉作)、観音寺風(佐藤三治郎作)、三川風(遠藤良勝作)、鶴岡風(安藤勇夫作、佐藤敬二郎作)

風に描かれている絵の特徴は、一般に軍記物昔話の中にみられる英雄、豪けつなどが多い。米沢や庄内は城下町として安定していたためか、上杉謙信とか、鶴岡に縁故の深い加藤清正の絵物語が描かれる。村山地区は、一般的に、金時、鬼頼光、直実と平惟盛などの絵が多く、地元の武士は描かれていない。

山形周辺の絵風は錦絵風のものも多く、洗練された絵付がなされており、これを江戸風と呼び、猿羽根、小田島風のような素朴な絵風を田舎風と呼んだと伝えられている。

版木風は、一枚風に使われたり、イカコバタ(クラゲ、カスベ風)に使われたりした。谷地、金瓶にある版木は幕末のもので古い姿を残している。山形版木風は、墨で摺るのではなく、染屋から紫紺をもらつて来て摺つたらしい。

風絵を描いたり、摺つたりしている人々は約7件あるが、特に新庄の隠明寺風保存会の活動は、公民館活動と直結し、その活躍は期待されている。風上げは子どもたちの遊びであり、現代も再び各地で発展することを願いたい。